

キャンドルナイト@与板

楽しみながら与板地域を盛り上げたいという思いから2012年に始まったキャンドルナイト@与板は、キャンドルの明りの下、フリーマーケットや音楽ライブ、地元の名産PRなどを行っています。活動を続けるにあたり、「ずっと同じ人が代表を務めることは良くない」と考え、スタートから5年目に世代交代を果たしました。今回はスムーズにバトンをつなげていく方法を元代表の高橋さんにお聞きしました。



元代表:高橋寿明さん

ステップ1 本音の出る場をつくる

イベントの企画会議以外でもメンバーとたくさんコミュニケーションを図るようにしました。時にはお酒を交わしつつ、たくさんの方と語り合ううちに、メンバーの強い想いや個々のキャラクターが見えるようになりました。そうすることで、適材適所が見え、任せやすい環境ができました。



ステップ2 挑戦の場をつくる

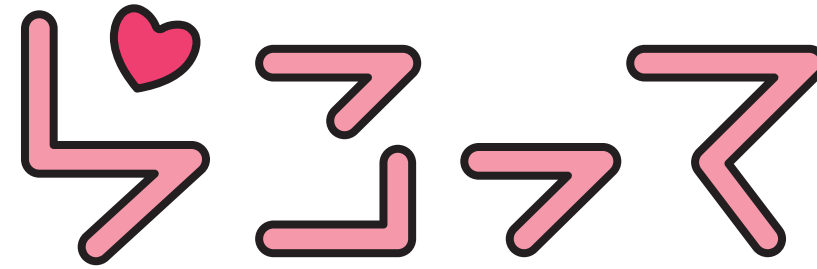
キャラクターに合わせているような役割を任せ、チャレンジできる機会を用意しました。例えば、部門ごとに担当リーダーを設け、次期代表候補の人にも、イベントの大事なポジションを任せました。いきなり代表職を引き継ぐのではなく、チームを引っ張る経験もでき、本人のやる気も増したように思います。

ステップ3 集まったメンバーでつくる

世代交代したことで、自分が代表の頃にはなかった視点が加わり、イベントとしての成長を感じています。しかし、代表は居てもイベントはみんなで作るもの。世代交代やイベントが長く続くことで、関わるメンバーの入れ替わり等もありますが、無理せずやりたい人がやることが大事だと思います。



世代交代をしたとき、スタート当初の想いややり方を無理につなげていく必要はなく、イベント自体が変わっていてもいいと思います。実際に世代交代を果たし、何も言わずともいい方向に変わっているので良かったなと思います。



Racotte vol.74

発行 ながおか市民協働センター



イベント運営のサポートで実践を積むデザイナーの卵

綿引沙南さん

インタビュー

interview



坂牧颯人さん

太鼓を通じた地域貢献に取り組む21歳

we can do it!

私たちは〇〇ができます!

長岡には様々なノウハウやスキルをもつ市民団体がたくさん! 困りごと、協力してほしいことはありませんか? 私たちが力になりますよ!

団体①

「福祉のおとのわ」は、認知症予防を手助けします!

認知症の予防と、認知症になっても人としての尊厳が守られ安心して暮らせるまちづくりを目指し、活動しています。認知症予防のための脳活性化プログラム(音楽療法、笑いヨガなど)を楽しくレクチャーします(有償)。

詳細はこちら



団体②

「虫亀地域活性化・文化保存会」は、山古志の盆踊り唄、太鼓の演奏ができます。

生まれ育った山古志の虫亀地域を明るく活気ある地域にしたいとの気持ちで、地域住民により結成されました。地域整備、音楽コンサートなどイベント運営を行っています。山古志の盆踊り唄や太鼓の演奏を披露することが出来ます。

詳細はこちら



information

センターからのお知らせ

無料でロッカー&レターケースをお貸しします!

協働センターでは団体の活動に使う物品を保管できるロッカーと、団体宛郵便物の受け取り場所として使えるレターケースを無料で貸出しています。

ロッカー

- ・1団体1ヶ所(18団体まで)
- ・ダイヤル式ロック錠
- ・高さ31cm×幅41cm×奥行41cm
- ・火気等危険物、液体、臭気の出る物は保管できません。

※鍵のからまないBOXタイプもあります(16団体まで)



レターケース

- ・1団体1段(10団体まで)
- ・幅24.9cm×奥行3.5cm×深さ3.95cm(A4サイズ)



注意事項 市民活動等、非営利で公益的な活動を行う団体に限ります。貸出し数に限りがありますので、申込み多数の場合は抽選になる場合があります。利用は毎年度更新となります。(申込期間:2月中旬~3月上旬、空いている場合は随時受付)



コライト 検索

ながおか市民協働センターは、地域をより良くする市民の活動が集まる拠点です。協働センターのwebサイト「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。らこっでのバックナンバーも閲覧できます。ぜひご覧ください。

らこら 2019.2.1 (vol.74) FREE 【発行】ながおか市民協働センター

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail.kyodo-c@ao-re.jp http://nkyod.org

配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

●活動PickUp!

- ・与板ゆいプロジェクト
- ・虫亀結いの会
- ・和太鼓早春の陣実行委員会
- ・大地創造職人

●市民活動・虎の巻

- ・世代交代の進め方 『キャンドルナイト@与板』
- 私たちは〇〇ができます!
- ・福祉のおとのわ
- ・虫亀地域活性化・文化保存会



毎週月曜日17時頃から放送中!

つながるラジオ

ながおかの市民活動紹介番組

放送時間 10分程度 第5月曜日を除く

地域をよくするウワサのあの人にインタビュー!

活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根掘り葉掘りお聞きしました。



さな
綿引沙南さん (20歳 / 大学生) 地域イベントボランティア

実践を通して社会人を模擬体験!
地域で活動することで新たな自分が見えてくる

長岡造形大学3年生でグラフィックデザインを学ぶ綿引沙南さんは、音楽イベントの音響サポートや、市民活動フェスタと大学生の橋渡し役、米百俵フェスタシャツプロジェクトなど地域活動にも積極的に取り組んでいます。綿引さんが活動をはじめたのは、1年生の時に受けた友人の誘いがきっかけです。当時、イベント運営に興味があった綿引さんは仕事体験として、花いっぱいフェアの一角で子ども向けの缶バッジづくりを企画運営しました。「子どもたちのハサミの技術に思ったより差があり、用意していた形をその場で変更したこともありました。子どもと一口に言っても、どんどん自分でつくりだす子や、受け身な子など、みんな個性的。実践の場を持ってみたことで多くの気づきがありました」。

また、「アールブリュット展」*では、福祉施設の職員からなる実行委員会に混ざり、

会場設営と会期中の会場案内を担当。「展示作品に刺激を受けたことはもちろんですが、運営方法にも発見がありました。作品に応じて展示方法を試行錯誤し、必要なものがあれば買い出しに走るなど、みんなでつくりあげている様子を目の当たりにしたんです。みんなでアイデアを出し合い、みんなでつくり上げることの面白さとパワーを体感する機会でした」。長岡のまちで、多様な人との交わりを通して、経験を重ねている真っ最中の綿引さん。「活動を通して、多様な個性があっていいことを知ることができ、自分らしい作品づくりにチャレンジしていきたい気持ちが湧いてきました。同時に、みんなで一緒に何かをつくりあげる機会も増やしていきたいと思っています」。

*文化的な伝統や流行、教育などにとらわれず、独自の発想と方法により制作した作品の展示会



●上:「アールブリュット展」の設営を手伝ったときの1コマ。地域活動を通してイベント運営に関わることは、美術館などで作品を鑑賞することでは得られない体験です。誰かのチカラになれる喜びや、自身の創作意欲にも刺激になってます。●左下:大学生になってからは一人旅に出掛けている綿引さん。2週間の韓国留学も経験。自身の興味関心ごとを深めるべく国内外に出掛けています。思い切っで行動していくことで新たな発見があります。●右下:綿引さんが制作した画びょうを使った作品。



はやと
坂牧颯人さん (21歳 / 会社員) 山古志闘牛太鼓会、太鼓指導者

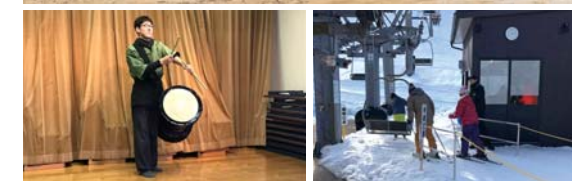
太鼓で出来ることはもっとある
「太鼓×地域貢献」の挑戦

得意の太鼓を活かして、生まれ育った山古志の地域貢献に取り組む坂牧颯人さん。太鼓との出会いは小学生のころ。中越地震の避難先で聴いた太鼓芸能集団「鼓童」の公演に衝撃を受け、太鼓の演者を志しました。高校を卒業すると佐渡の地で鼓童研修生として厳しい稽古に励みましたが、鼓童メンバーとなる夢は惜しくも叶わず。その後は「私の故郷として、いつかは戻りたかった」と思い抱いていた山古志へ帰郷。宿泊施設「あまやち会館」や「古志高原スキー場」で働きながら、「自分の出来ることで地域貢献したい」と、あまやち会館の利用者に「送り太鼓」を披露したり、自身も所属していた山古志闘牛太鼓会で子どもに太鼓の指導をするなど、太鼓を通した様々な形の地域貢献にチャレンジしています。

佐渡では代々と守り育ててきた地域の伝統芸能が、今や一大観光資源であると同時に、

地域住民の誇りともなっている様子を目の当たりにした坂牧さん。その経験から、芸能に欠かせない太鼓技術を地域住民に継承する指導者となることを目指すようにもなりました。「地域の芸能は地域の人で残さなければ。太鼓を入り口として、芸能を『カッコいい!』と思う子どもを増やしたい」。

Uターンして、地域づくり活動や魅力向上に取り組む人材や団体は山古志にも多数いると気付いた坂牧さん。自らは地域外の人々と山古志の橋渡し役を担いたいと思気込みます。「太鼓を通して多くの人が山古志に足を運ぶきっかけを作りたい。また、外からのリアクションを得ることで、私たちが気付いていなかった山古志の魅力を知ることもあると思います」。

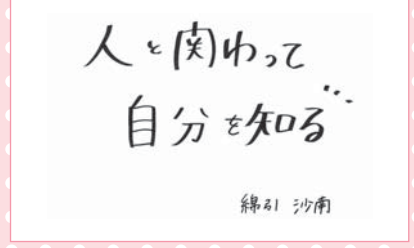


●上:自身も小学生のころから高校生まで所属していた山古志闘牛太鼓会。今でも演奏のサポートや技術指導で関わり続けています。●左下:「あまやち会館」にて、送り太鼓で利用者を見送る坂牧さん。山古志でいい思い出を作ってもらいたいの気持ちから自主的に始めました。●右下:宿泊施設に加え、冬季はスキー場でも働く坂牧さん。それらと太鼓を組み合わせ、地域内外の人の流れ・交流を生み出すことを画策中です。

profile

- 1998年 茨城県水戸市に生まれる。
- 2013年 高校時代にサッカー部マネージャーとしてメンバーを支える中で、周囲を楽しませたり、喜ばせることの面白さを知る。音楽好きでライブに足を運ぶうちにイベント運営の仕事に興味を持つ。
- 2016年 長岡造形大学に進学。1年生の時からイベント運営の手伝い始める。

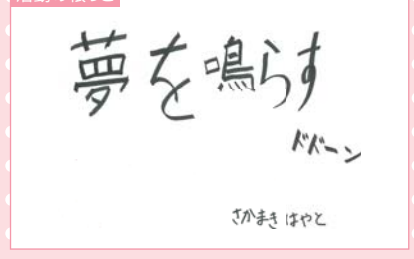
活動の根っこ



profile

- 1997年 山古志村(現長岡市)に生まれる。
- 2004年 小学1年生時、中越地震に被災。避難先の六日町(現南魚沼市)で鼓童の公演を観て、鼓童のメンバーとなることを目標とする。
- 2006年 小学3年生時に山古志へ戻る。山古志闘牛太鼓会に所属し、太鼓の練習に励む。
- 2016年 高校卒業。鼓童研修生として佐渡へ渡る。
- 2018年 「後悔なくやりきった」ものの、鼓童メンバーにはなれず山古志へ帰郷。(株)山古志観光開発公社に所属し、地域内の観光施設で働く。

活動の根っこ



活動PickUp!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

生の声は「ラジオ」「コライト」で!

与板ゆいプロジェクト

与板の魅力で人を結ぶ



与板地域に住む若者が、同地域がイベント時には人でにぎわうものの、それ以外は閑散としている現状に危機感を持ち、日常的に地域外から人が来る仕組みを作りたいと思い発足。与板地域の空き空間や自営業者のノウハウを活用し、与板の魅力を高める情報発信を中心に活動しています。今後は、与板のまちをリノベーションして魅力を高めたり、与板らしい風景や暮らしの写真を盛り込んだホームページを作成する予定です。

虫亀結いの会

住民のスキルを集めて集落維持!

110世帯ある山古志虫亀地区。ここで暮らす30代~79歳の有志22名が集まり、要支援者世帯など13軒の雪下ろしや、金倉山周辺や風口峠から茅峠の除草と側溝の掃除を行っています。「地域内で支え合い暮らし続けよう」と平成29年から活動を開始。メンバーの経験豊富で多彩なスキルを駆使して、集落センターにスロープや除雪機の車庫を手作りしました。「作業は楽しく!そして生活に関わる様々なことに取り組んで行きたい」と話しています。



和太鼓早春の陣実行委員会

「太鼓の音で長岡に春を届けたい」学生主体の演奏会



長岡技術科学大学の「悠久太鼓愛好会つるかめ会」と長岡造形大学の「輪太鼓衆 転太鼓舞」の2つの学生サークル有志が集い、毎年1回和太鼓演奏会を開催しています。平成31年3月3日(日)に第18回目を開催。「日頃の感謝と、地域の和太鼓文化の醸成を図りたい」と約1年の歳月を掛け準備しています。また、年間を通して市内外のイベントに出演。全員が6部会に分かれ運営を経験するほか、地域住民との出会いなど、太鼓が学生に様々な縁を繋いでいます。

大地創造職人

軽作業を福祉作業所に発注

黒津町の反町さんは4代続く専業農家であり、特別栽培米や、きのこの生産販売をしています。これまで中学校の職場体験の受入れや、学校田の栽培協力を行ってきました。農業でも社会貢献ができないかと思っていた時、福祉作業所に出会いました。仕事を発注することで利用者の賃金につながることを知り、昨年からのきこの入れる商品袋のシール貼りを発注しています。今後も、地域と共に成長して行ける農業を目指しています。



みんなの声
投稿 随時募集中
「これも協働!」暮らしの中で感じた人とのつながり

投稿者 高橋さほらさん
冬道で雪にはまって動けなくなっている車がある、何人かで車を押したり、スコップで雪を掘ったりしている現場を見る(または、そこにいる)ことがあります。どこからともなく、一人、また一人と救出作戦に参加する勇者たち。そして、無事に車が脱出したのを見届けると、何事もなかったかのように立ち去っていきます。困ったときはお互いさま。当たり前のことですが、心あたたまる光景ですね。

投稿者 虹の架け橋さん
昨年、町内の班長が輪番で回ってきました。輪番とはいえ、面倒くさいなあと思っていましたが、いつもこういう仕事を引き受けてくれる人がいたんだとありがたみを感じました。毎年秋には町内の運動会もありますが、今年も力を合わせて優勝したいと思っています。

投稿方法
投稿フォームを使う
協働センター窓口で投稿する
QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。
協働センター窓口に設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。

